

「第二次町田市環境マスタープラン」 2018年度進捗報告書

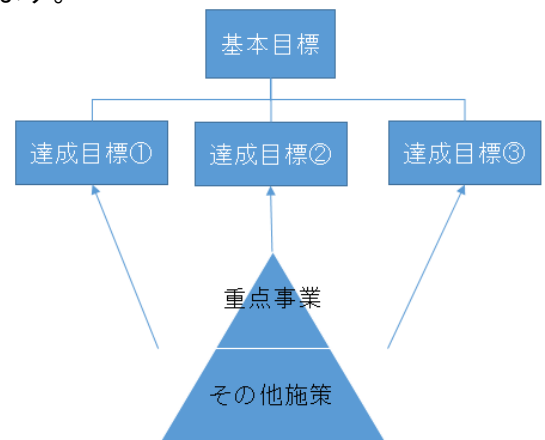


ハスののん

本資料では、「第二次町田市環境マスタープラン」で掲示した5つの基本目標ごとに、2018年度までの計画の進捗状況を下記の3点を中心にまとめましたので報告します。

- 1、5つの基本目標に対する**達成目標**
(基本目標ごとに3つの数値目標)
- 2、「後期アクションプラン」内で掲示した市が重点的に取り組む事業である**重点事業**
- 3、「後期アクションプラン」内で提示した**その他の施策**

これら3つを体系化したものが右図になります。



なお、後期アクションプランの重点事業、その他の施策の項目では、その事業が基本目標ごとに、どの達成目標に関連があるかを目安として示しています。

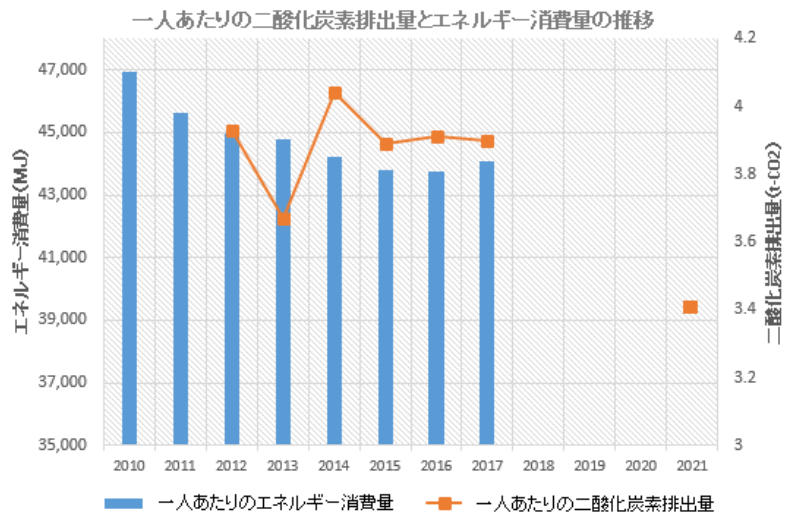
※「後期アクションプラン」は町田市環境マスタープラン推進計画です。

1 地域で取り組む地球温暖化の防止

<達成目標の進捗状況>

2021年度までの達成目標	達成状況			
	基準年	2017年度	2018年度	2021年度
①市民一人あたりの二酸化炭素排出量(2010年度、3.8t-CO ₂ /人)の10%削減を目指します。	3.8t-CO ₂ /人	3.9t-CO ₂ /人	集計中	3.42t-CO ₂ /人
②再生可能エネルギーの市内エネルギー消費量に対する割合0.3%(2010年度、0.05%)を目指します。	0.05%	-	-	0.30%
都内における再生可能エネルギーによる電力利用割合	11.1%	14.1%	集計中	30% (2030年度)
③マイカーの使用はできるだけ控え、徒歩または自転車、電車、バスを利用する市民の割合(2011年度、37.1%)の10ポイント増の47.1%を目指します。	37.1%	29.2%	26.4%	47.1%

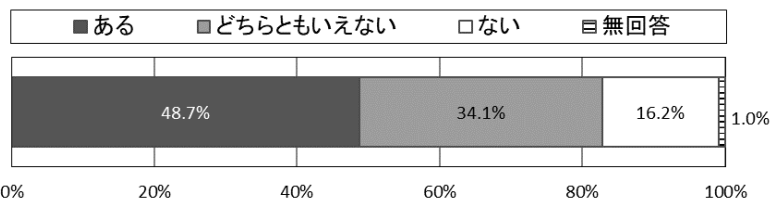
- ① 市民一人あたりの二酸化炭素排出量の削減は中々進んでいません。これは東日本大震災以降、原子力発電の代わりに、化石燃料を燃やす火力発電が増えたことに大きな影響を受けています。市民一人あたりのエネルギー使用量(電力、都市ガス等)は減少傾向にありましたが、2017年度は増加しました。
- ② 市の事業は完了しているため、都内の状況のみを参考までに記載しています。市内の再生可能エネルギーを導入している割合はアンケート(参考資料1, p.6)によると11.1%となっています。
- ③ マイカーの使用をできるだけ控えるという市民の割合は毎年減少しています。



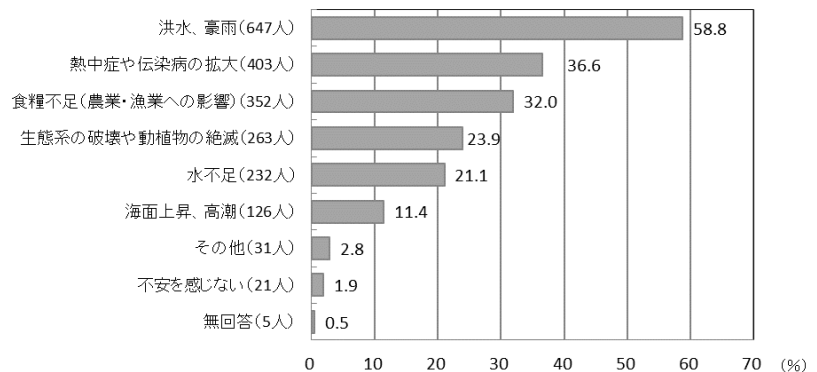
アンケート結果 地球温暖化について

参考資料1, p.3

Q. あなたは、町田市的气候が以前と比べて変わってきていると感じたことがありますか。



Q. 地球温暖化などの環境問題を原因とする異常気象の影響で、あなたが不安に感じることは何ですか。(2つまで)



<施策の取り組みの結果>

取り組み結果の表記

◎：予定以上に進んだ ○：予定どおりに進んだ

△：あまり予定どおりに進まなかった ×：まったく予定どおりに進まなかった

－：取り組みなし（目標達成済又は終了した事業）

●重点事業(参考資料2, pp. 1-2)

関連達成目標	番号	重点事業名	目標	基準年度状況(値) (2015年度)	目標(値) (2021年度)	2018年度		年度進捗目標
						年度目標(値)	年度末現状(値)	
①	1	「わたしのエコ宣言」による家庭での取り組み支援	わたしのエコ宣言参加者の増加	－	10,000人(延べ数)	2,000人/年	2,689人/年 3,674人(延べ数)	○
①	2	みどりのカーテン等の積極的な導入	公共施設参加数の増加	45施設	300施設(延べ数)	100施設(延べ数)	87施設(延べ数)	△
			市民向け苗の配布数の増加	8,000苗	10,000苗	8,000苗	6,411苗	
①	3	歩道の透水性舗装の整備	透水性舗装面積の増加	25,958㎡	34,240㎡	2,400㎡/年	2,413㎡/年 33,190㎡(累計)	○
① ③	4	路線バス利用環境整備	既存バス停を活用した乗り継ぎ拠点の整備完了	協議開始	既存バス停を活用した乗り継ぎ拠点の整備完了	①乗り継ぎ拠点を活用したバス路線網再編検討 ②乗り継ぎ拠点候補地における調査測量	①バス路線網再編の検討開始 ②乗り継ぎ拠点候補地の測量調査実施	○
①	5	水素ステーションの誘致	水素ステーションの誘致	－	定置式または移動式1施設	1施設	調査検討中	△
①	6	エコドライブの周知、普及・啓発の実施	エコドライブ実践者の割合の増加	42.8%	エコドライブ実践者の割合2015年度比10ポイント増	－	44.6%	○
①	7	特別緑地保全地区等の指定拡大	特別緑地保全地区の面積の増加	43ha	46ha	山崎特別緑地保全地区の用地取得(取得面積0.5ha、市有地面積計1.2ha)	47.5ha(取得面積0.5ha)	○

代表的なものや、補足説明が必要と考える事業について以下に示します。

(重点事業2) 5月に初心者向けの緑のカーテン育て方講習会(参加24名)の開催やゴーヤの苗の配布(6,411苗)を行いました。目標には達しませんでした。さらに取り組みを拡大するため、7月には緑のカーテンの写真を広く募集し、応募された写真をホームページで公開しました。2019年度も施設や商店街など多方面に呼びかけを行います。

(重点事業5) 市内の交通量が多い幹線道路沿いを中心にステーション適地の調査を行いました。その中で市内5~6箇所の誘致候補地を検討したものの決定には至りませんでした。2019年度は東京都や他部署及び地元の不動産事業者等と連携して情報収集を図り、誘致候補地の検討を行います。

●その他の施策(参考資料2, pp. 11-13)

基本目標1	関連達成目標	取り組み結果(取り組み数)				
		◎	○	△	×	－
	①	2	28	5	0	0
	②	0	5	2	0	0
	③	1	5	2	0	0
	計	3	38	9	0	0

※複数の達成目標に関連する施策の場合は、重複してカウントしています。

2 自然環境と歴史的文化的環境の保全

<達成目標の進捗状況>

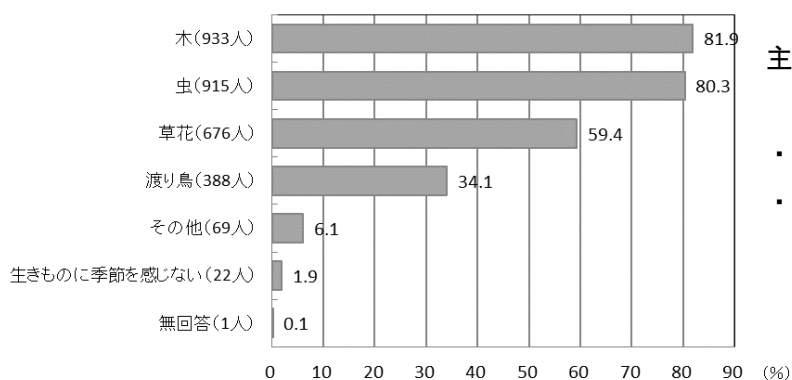
2021年度までの達成目標	達成状況			
	基準年	2017年度	2018年度	2021年度
①市域面積に占める安定的に確保された緑地の割合(2010年度、28.9%)を、2020年度までに概ね30%確保することを目指します。	28.9%	28.8%	28.7%	30%
②町田市内での水辺(河川・池・公園等の水辺)とのふれあいについて満足している市民の割合(2011年度、39.8%)の10ポイント増の49.8%を目指します。	39.8%	43.7%	46.6%	49.8%
③生きものに関心のある市民の割合40%(2013年度、31.3%)を目指します。	31.3%	37.4%	37.5%	40%

- ① 市域面積に占める緑地の割合は減少しています。緑地保全基金等を活用し緑地確保に取り組んでいますが、生産緑地の減少もあり、基準年度比で減少している状況です。
- ② 水辺とのふれあいについて、満足している市民の割合は2017年度と比較すると2.9ポイント増加、基準年からは6.8ポイント増加しました。
- ③ 生きものに関心のある市民の割合は2017年度と比較すると0.1ポイント増加、基準年からは6.2ポイント増加しました。

アンケート結果 町田市の生きものについて

参考資料 1, pp. 4-5

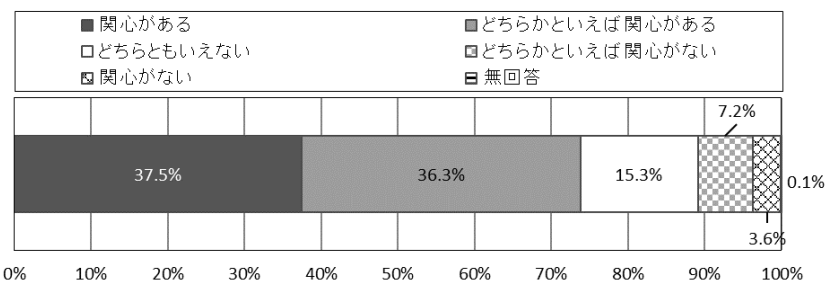
Q. 町田市内のどのような生きものに、季節を感じますか。(あてはまるもの全て)



主なその他意見

- ・ウグイス (21件)
- ・その他の野鳥 (15件) 等

Q. 町田市内の生きものに関心がありますか。 達成目標 2-③



<施策の取り組みの結果>

取り組み結果の表記

◎：予定以上に進んだ ○：予定どおりに進んだ

△：あまり予定どおりに進まなかった ×：まったく予定どおりに進まなかった

－：取り組みなし（目標達成済又は終了した事業）

●重点事業(参考資料 2, pp. 3-4)

関連 達成 目標	番号	重点事業名	目標	基準年度 状況(値) (2015年度)	目標(値) (2021年度)	2018年度		年度 進捗 目標
						年度目標(値)	年度末現状(値)	
①	8	都市計画公園の用地取得・整備	町田薬師池公園四季彩の杜 西園の整備完了 野津田公園、芹ヶ谷公園の一部整備完了	－	・町田薬師池公園四季彩の杜 整備完了 西園(2019年度)、北園(2023年度) ・一部整備完了 野津田公園(2021年度)、芹ヶ谷公園(2019年度)	・町田薬師池公園四季彩の杜西園工事(2/3)、ウエルカムゲート整備工事(1/2)着手 ・野津田公園拡張区域の実施設計完了、芹ヶ谷公園整備工事(1/2)着手	・西園(2/3)及びウエルカムゲート(1/2)の整備工事完了 ・拡張区域実施設計概ね完了 ・芹ヶ谷公園(1/2)整備工事及び植生管理(2/3)完了	○
②	9	水辺の魅力の発信	情報発信回数の増加	－	20回/年	4回/年	5回/年	◎
						忠生公園の谷戸(湧水)の魅力を発信する観察会の開催	15回/年	○
③	10	生物多様性情報拠点機能の構築・充実	生物多様性情報拠点機能の整備・充実	内容、方向性の検討	生物多様性情報拠点機能の整備・充実	情報拠点機能の整備・充実	アプリの利用決定	○
①	11	北部丘陵の整備	新たな取り組みにより維持管理や活用が図られた山林等の面積の増加	－	5,000㎡	モデル地区の抽出完了	19,108㎡	◎
①	12	遊休農地のあっせん	農地あっせん面積の増加	14.3ha	20ha	里山の原風景を保全していくため、遊休化している農地1haの利活用を図る	16.4ha (0.9ha増加)	○
①	13	観光交流拠点を活用したイベントの実施	小野路宿里山交流館での自然や歴史・文化に関するイベント実施回数の増加	32回	40回/年	39回/年	39回/年	○

代表的なものや、補足説明が必要と考える事業について以下に示します。

(重点事業 9) 水辺の魅力の発信に関しては、環境広報紙「ECO まちだ」で夏号、冬号の2回水辺の生きものの紹介を行い、ホームページ上でも水辺の生きものや、その保全に関する情報発信を行いました。また、薬師池公園では水辺の生きもの調査を行い、その結果をホームページや生きもの共生フォーラムのパネル展示にて情報発信しました。忠生公園では市民向けの自然観察会（植物、昆虫、野鳥）を15回行いました。

●その他の施策(参考資料 2, pp. 14-17)

基本目標2	関連 達成目標	取り組み結果(取り組み数)				
		◎	○	△	×	－
	①	0	26	1	0	4
	②	0	8	1	0	0
	③	0	16	0	0	2
	計	0	50	2	0	6

※複数の達成目標に関連する施策の場合は、重複してカウントしています。

3 持続可能な循環型社会の構築

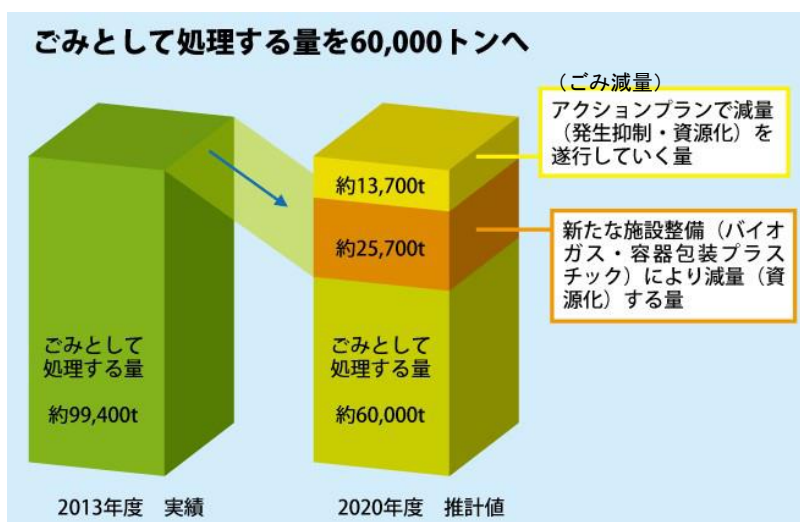
<達成目標の進捗状況>

2021年度までの達成目標	達成状況			
	基準年	2017年度	2018年度	2020年度
①ごみとして処理する量(資源ごみを含まない:2009年度、9万9千t)を40%削減し、2020年度に6万tにします	99,152t	92,894t	91,789t	60,000t
②一人一日あたりのごみとして処理する量(資源ごみを含む:2010年度、842g/人・日)を、2020年度までに782g/人・日に削減することを目指します。	842g	770g	758g	782.0g
③資源化率(2010年度、26.7%)を、2020年度までに54%まで高めることを目指します。	26.7%	25.8%	25.5%	54.0%

- ① ごみとして処理する量は、基準年から約7,400t減少しています。
- ② 一人当たりのごみ量は、758gと減少しています。
- ③ 資源化率は、基準年度から低下しています。

町田市一般廃棄物資源化基本計画 削減目標について

町田市では、「町田市一般廃棄物資源化基本計画」で、2020年度までに「ごみとして処理する量を40%削減」することを全体目標としています。目標達成には、約39,400tの減量が必要ですが、新たな施設整備の計画(生ごみのバイオガス化による資源化及び容器包装プラスチックの資源化)により、約25,700tが減量される予定です。



施設整備はp.6で示すとおり、稼働時期が遅延し、2020年度の目標達成は見込めない状況です。引き続き、施設整備を着実に進めると共に、施設によらない約13,700tの減量については、2015年度に策定したごみ減量アクションプランに基づく取り組みを進めていきます。

<施策の取り組みの結果>

取り組み結果の表記

◎：予定以上に進んだ ○：予定どおりに進んだ

△：あまり予定どおりに進まなかった ×：まったく予定どおりに進まなかった

－：取り組みなし(目標達成済又は終了した事業)

●重点事業(参考資料2, pp.5-7)

関連達成目標	番号	重点事業名	目標	基準年度状況(値)(2015年度)	目標(値)(2021年度)	2018年度		年度進捗目標
						年度目標(値)	年度末現状(値)	
①	14	情報発信拠点としてのリサイクル広場の活用	リサイクル広場開催箇所数の増加	17ヶ所(2014年度)	23ヶ所(2020年度)	リサイクル広場開催箇所数23ヶ所、リサイクル広場来場者数34,000人	24ヶ所	○
			リサイクル広場来場者数の増加	30,000人(2014年度)	36,000人(2020年度)	31,329人		

関連達成目標	番号	重点事業名	目標	基準年度状況(値) (2015年度)	目標(値) (2021年度)	2018年度		年度進捗目標
						年度目標(値)	年度末現状(値)	
① ② ③	15	ごみ減量に関する出前講座の充実	出前講座実施回数の増加	104回/年(2014年度)	150回/年(2020年度)	120回/年	138回/年	○
	16	食品ロスの啓発等、各種キャンペーンの実施	キャンペーンの実施回数の増加	12回/年(2014年度)	20回/年(2020年度)	40回/年	55回/年	○
	17	事業所向けの情報提供の実施	説明会開催回数	—	1回/年(2020年度)	事業所訪問件数:100件、事業者の紙ごみを受け入れる施設の検討:1か所、表彰制度の創設	2回/年	○
			市内事業所への訪問件数の増加	—	190件/年(2020年度)		193件/年	
	18	生ごみ処理機の導入促進	生ごみ自家処理世帯数の増加	1,831世帯(2014年度)	14,981世帯(2020年度)	200世帯の増	3,222世帯	△
19	ごみ・資源の新たな効果的な収集方法の検討	効果的な収集方法の確立	—	効果的な収集方法の確立(2020年度)	2025年度の資源ごみ処理施設の稼働開始を見据えて、収集体制の見直しを行う	収集方法を検討中	○	
① ③	20	熱回収施設等の整備	熱回収施設等(焼却施設、バイオガス化施設、不燃・粗大ごみ処理施設)の整備、稼働開始	事業者候補者選考委員会の開催、整備運営事業者の選定	稼働開始	・熱回収施設の建設に向け、造成工事及び建設工事を進める ・地区連絡会等において周辺住民と合意形成を図りながら、安心安全な施設の建設を進める	第1期工事の完了 第2期工事進行中	○
	21	資源ごみ処理施設の整備	① 資源ごみ処理施設(相原)の整備、稼働開始 ② 資源ごみ処理施設(上山田)の整備、稼働開始	① 要求水準書案の作成準備 ② 施設計画等検討	① 稼働開始(2025年度) ② 稼働開始(2027年度) ※2018年3月に稼働開始目標年度の見直しを行いました(当初目標は2020年度)。	・用地取得に向けた調査及び地権者との交渉を進める ・地区連絡会等において周辺住民と合意形成を図りながら、施設建設計画を推進する	関係者等と調整中	×

代表的なものや、補足説明が必要と考える事業について以下に示します。

(重点事業 17) 市内の事業所を訪問し、193件の排出指導を行いました。さらに排出事業者向けの説明会を2回開催し、啓発活動と情報提供を行いました。また、市内の事業所から排出されるごみのさらなる減量や適正排出を推進するため、「まちだ3R賞」を創設しました。

(重点事業 18) ダンボールコンポストの講習会を、市民、町内会・自治会、学童向けに幅広く実施しました。家庭用生ごみ処理機については、139名の方が補助制度を利用しましたが、大型生ごみ処理機については、新たな設置をすることができなかつたため、2019年度は大型生ごみ処理機設置に向けて町内会・自治会や各種団体へのPRを強化していきます。

●その他の施策(参考資料2, pp.17-20)

基本目標3	関連達成目標	取り組み結果(取り組み数)				
		◎	○	△	×	—
	①	1	28	4	0	0
	②	0	14	0	0	0
	③	1	21	4	0	0
	計	2	63	8	0	0

※複数の達成目標に関連する施策の場合は、重複してカウントしています。

4 良好な生活環境の創造

<達成目標の進捗状況>

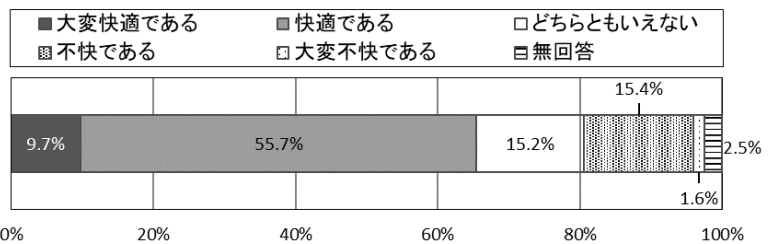
2021年度までの達成目標		達成状況				
		基準年	2017年度	2018年度	2021年度	
①大気に関するすべての項目での環境基準の達成を目指します。	SO ₂	100%	100%	100%	100%	
	NO ₂	100%	100%	100%	100%	
	SPM	100%	100%	100%	100%	
②鶴見川、境川、恩田川の水質に関するすべての項目での環境基準の達成を目指します。	BOD	鶴見川	100%	100%	100%	100%
		境川	100%	100%	100%	100%
		恩田川	100%	100%	100%	100%
	SS		100%	100%	100%	100%
	DO		100%	100%	100%	100%
	pH	鶴見川	100%	91%	81%	100%
		境川	100%	90%	78%	100%
		恩田川	83%	92%	42%	100%
③居住地の周辺環境について満足している市民の割合(2011年度、62.7%)の5ポイント増の67.7%を目指します。		62.7%	62.5%	65.4%	67.7%	

- ① 大気に関するすべての項目で環境基準を達成しています。
- ② 水素イオン濃度（pH）以外は、環境基準を達成しています。pHは、基準値を超える測定結果が多くありました。3河川ともアルカリ側に超過しており、藻の光合成の影響と考えられます。
- ③ 居住地の周辺環境に満足している市民の割合は、2017年度から2.9ポイント、基準年からは2.7ポイント増加しています。

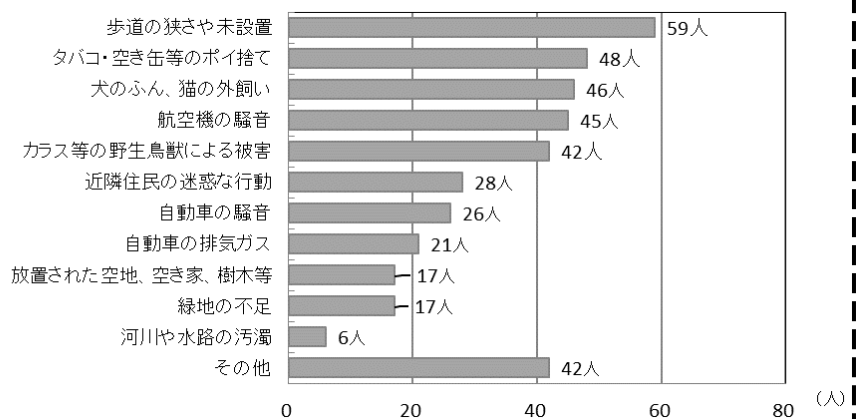
アンケート結果 居住地の周辺環境について

参考資料 1, p. 10

- Q. あなたがお住まいになっている周辺の環境は、あなたにとって快適ですか。達成目標 4-③
※達成状況の中では、「大変快適」「快適」の回答を「満足」と読み替えて集計しています。



- Q. 「不快である」「大変不快である」を選んだ方、現在お住まいになっている周辺の環境について、気になっていることは何ですか。(2つまで)



<施策の取り組みの結果>

取り組み結果の表記

◎：予定以上に進んだ ○：予定どおりに進んだ

△：あまり予定どおりに進まなかった ×：まったく予定どおりに進まなかった

－：取り組みなし（目標達成済又は終了した事業）

●重点事業(参考資料 2, pp. 7-8)

関連達成目標	番号	重点事業名	目標	基準年度状況(値) (2015年度)	目標(値) (2021年度)	2018年度		年度進捗目標
						年度目標(値)	年度末現状(値)	
①	22	自転車利用環境の整備	自転車走行空間整備延長	1.37km(2016年度)	3.03km	2017年度に選定した箇所への自転車レーンの設置および次期設置個所の選定	2.61km	◎
②	23	下水道未整備箇所の污水管整備の推進	下水道人口普及率の増加	98.5%	99.0%	98.8%	98.8%	○
②	24	下水処理水の水質向上	高度処理化率の増加(段階的 高度処理を含む)	9.8%	20.6%	鶴見川クリーンセンター 高度処理施設増設工事の完了	25.9%	◎
③	25	有害化学物質の適正管理・処理の指導	全対象事業場57箇所(2016年3月31日時点)への継続監視	－	20件/年	20件/年	23件/年	○
③	26	生活風景宣言等による良好な景観づくり	「生活風景宣言」件数の増加	－	5件(2020年度)	フォーラムなどを開催し、周知を図る	0件	△

代表的なものや、補足説明が必要と考える事業について以下に示します。

(重点事業 24) 鶴見川クリーンセンターにおいて下水処理施設の増設工事が完了し、より高度な下水処理ができるようになりました。さらに成瀬クリーンセンターにおいては運用の手法を改善し、段階的に高度処理化を増進させることができました。以上のことで目標値を上回る高度処理化率を達成し、良好な水質の確保に繋がりました。

(重点事業 26) 生活風景宣言の登録制度について検討を行い、周知のための準備を行いました。さらに町田市住みよい街づくり条例に基づき登録されている地区街づくり団体の関係者に声掛けを行いました。制度の検討や周知の準備に時間を要したため、2018年度は目標に達しませんでした。2019年度は景観まちづくりニュースの配布により生活風景宣言の周知を図り、登録を促します。

●その他の施策(参考資料 2, pp. 20-24)

基本目標4	関連達成目標	取り組み結果(取り組み数)				
		◎	○	△	×	－
	①	3	10	2	0	0
	②	0	12	0	0	0
	③	1	28	0	0	1
	計	4	50	2	0	1

※複数の達成目標に関連する施策の場合は、重複してカウントしています。

5 環境に配慮した生活スタイルの定着

<達成目標の進捗状況>

2021年度までの達成目標	達成状況			
	基準年	2017年度	2018年度	2021年度
①環境に配慮した行動を行っている市民の割合(2011年度、40.7%)の10ポイント増の50.7%を目指します。	40.7%	37.9%	37.5%	50.7%
②市内の小中学校での環境教育や環境配慮行動の100%実施を目指します。	100%	100%	100%	100%
③環境学習や環境に関するイベント等に積極的(いつも・ときどき)に参加する市民の割合(2011年度、10.6%)の7ポイント増の17.6%を目指します。	10.6%	15.1%	14.2%	17.6%

- ① 環境に配慮した行動を行っている市民の割合は減少しています。
- ② 市内の小中学校における環境学習は全校で継続的に行われており、定着しています。
- ③ 環境学習や環境に関するイベントへの参加率は増加傾向でしたが、2018年度は減少しました。

アンケート結果 環境に配慮した行動について

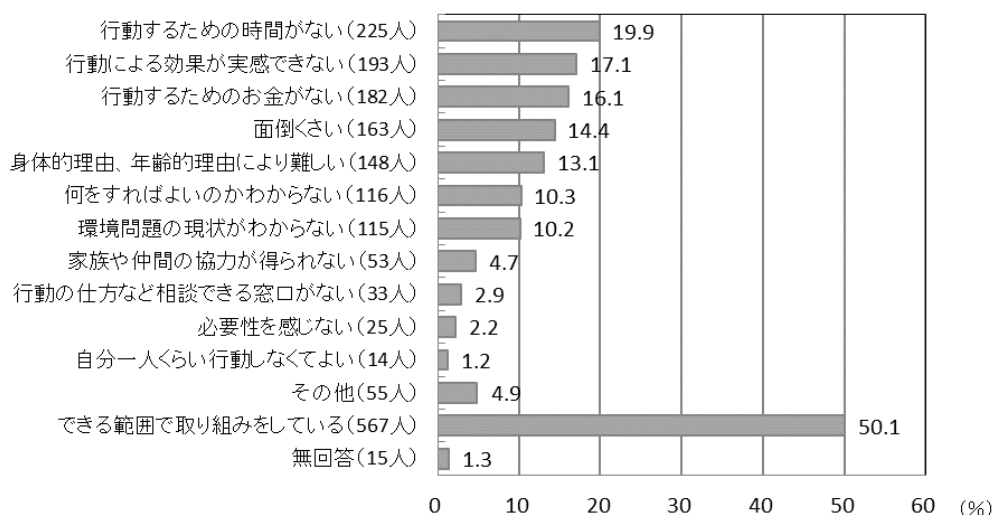
参考資料 1, pp. 6-7

Q. あなたのご家庭ではどのような環境に配慮した行動を行っていますか。

※達成状況の数値は、環境に配慮した行動の設問 21 項目の内、継続的に調査を実施している 17 項目における、「いつもやっている」の平均値です。この項目の内、「いつもやっている」と「ときどきやっている」を合計した割合が高い項目は、「ごみの分別の徹底=98.3%」が最も高く、「トレイ・ペットボトル等のリサイクル=96.5%」が続きました。

Q. 環境に配慮した行動を行う上で、「難しい点」「取り組みが行えない・行わない」理由は何ですか。

(2 つまで)



環境配慮行動を行う上で、「難しい点」「取り組みが行えない・行わない」理由は、「できる範囲で取り組みをしている」が最も多く 50.1%でした。次いで、「行動するための時間がない」19.9%、「行動による効果を実感できない」17.1%、「行動をするためのお金がない」16.1%という回答も多くありました。

<施策の取り組みの結果>

取り組み結果の表記

◎：予定以上に進んだ ○：予定どおりに進んだ

△：あまり予定どおりに進まなかった ×：まったく予定どおりに進まなかった

－：取り組みなし（目標達成済又は終了した事業）

●重点事業(参考資料 2, pp. 9-10)

関連達成目標	番号	重点事業名	目標	基準年度状況(値) (2015年度)	目標(値) (2021年度)	2018年度		年度進捗目標
						年度目標(値)	年度末現状(値)	
②	27	環境副読本を活用した環境教育の実施	環境副読本の市内公立全小学校での活用	－	市内公立全小学校42校	38校	38校	○
① ③	28	子ども向け環境講座のプログラムの企画・実施	新たなプログラムの企画・実施による環境学習の充実	既存プログラムの改善 新規プログラムの実施	新たなプログラムの企画・実施による環境学習の充実	環境学習の機会のさらなる充実を図る	既存プログラムの改善 新規プログラムの実施	◎
①	29	まちだエコ宣言制度の推進	まちだエコ宣言制度への参加事業者数の増加	67店・事業所	100店・事業所	72店・事業所	60店・事業所	△
①	30	ホームページの充実による情報集約・発信	エコページへのアクセス数の増加	3,987件	8,000件	環境学習一覧の作成	4,555件	◎
			分野別・年代別環境学習一覧の作成	－	環境学習一覧の作成(2018年度)		環境学習一覧の作成	
①	31	ごみ減量サポーターの地域活動支援	ごみ減量サポーターが主体となり、出前講座やリサイクル広場の開催、大型生ごみ処理機導入を行う団体数の増加	－	10団体/年	地域活動団体数 22団体	20団体	○

代表的なものや、補足説明が必要と考える事業について以下に示します。

(重点事業 29) まちだエコ宣言制度は、自主的に環境配慮活動を行っている事業者がその取り組み内容を宣言し、市がその取り組み内容を市民や他の事業者によくPRし、さらなる環境配慮型の事業活動及び消費活動を促進する制度です。2018年度は環境白書や環境広報紙「ECO まちだ」で取り組みの様子を紹介しました。さらにエコ宣言参加事業者らの活動をホームページで紹介するなど、普及・推進に努めましたが、年度目標の達成には至りませんでした。2019年度は商店会を通じ、より積極的な呼びかけを行います。

(重点事業 30) 市民が自分の興味関心や年齢層にあった環境イベントや学習プログラムを見つけることができるよう、学習一覧を作成し、エコページで公表しました。また、市ホームページの「ごみ・環境」のページ構成を見直し、必要な情報へのたどり着きやすさを改善しました。さらに、これまで情報が届きにくかった年齢層に対する効果的な情報発信方法を検討し、SNSアプリのインスタグラムにエコキャラクター「ハスのん」のアカウントを開設しました。

●その他の施策(参考資料 2, pp. 25-27)

基本目標5	関連達成目標	取り組み結果(取り組み数)				
		◎	○	△	×	－
	①	0	20	1	0	1
	②	0	3	0	0	0
	③	0	11	1	0	0
	計	0	34	2	0	1

※複数の達成目標に関連する施策の場合は、重複してカウントしています。

